

■カナダ：オタワ・ノバスコシア州政府、ファンディ湾潮力発電を検討

地元メディアは2009年9月6日、オタワとノバスコシア州両政府が同国ファンディ湾での潮力発電の開発を認めるかどうかを検討しており、早ければ9月中旬にも許可が出ると伝えた。ニューブランズウィック州とノバスコシア州の間にある同湾では、毎日1,000億トンという世界最大級の潮汐変化があり、大規模な再エネ開発が可能と見込まれている。同国の潮汐発電は40GW以上の開発余地があると見られているが、その大半が北極圏にあり需要地から遠いため未開発である。漁業面での悪影響なども懸念されているが、バンクーバーに本社のあるクリーンカレントパワーシステムズ社のグレン社長は、潮力発電は仕組みが単純で、出力予測もしやすく、電力資源としては大変魅力的であると言っている。また、同社の発電機は低周波振動が少なく、プロペラのブレードにも魚の衝突を防ぐための特殊なガードがつけてあり安全だとしている。ファンディ湾での潮力発電には、同社を含め現在3社が名乗りを挙げている。